

認定書

国住参建第 3065 号
令和 7 年 12 月 10 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永作 様
株式会社 日本アクア
代表取締役 中村 文隆 様

国土交通大臣 金子 恭之

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

- 認定番号
PC030BE-4288(2)
- 認定をした構造方法等の名称
吹付け硬質ウレタンフォーム充てん／化粧窯業系サイディング・ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁
- 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。
令和 7 年 10 月 1 日より大臣印の押印が廃止されております。

別添

1. 構造名

(2) 吹付け硬質ウレタンフォーム充てん/化粧窯業系サイディング・ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項目	製品仕様
① 外 装 材	<p>化粧窯業系サイディング</p> <p>規格：JIS A 5422 組成(質量%)：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 中実品</p> <ul style="list-style-type: none"> けい酸カルシウム硬化物 65～86 有機質繊維 1～13 (セルロース繊維、ポリビニルアルコール繊維、ポリプロピレン繊維等) 無機質繊維 4 未満 (ガラス繊維、ロックウール繊維等) 有機質混和材 14 未満 (リグニン、メチルセルロース、撥水剤等) 無機質混和材 27 未満 (パーライト、炭酸カルシウム、マイカ等) <p>b. 中空品</p> <ul style="list-style-type: none"> けい酸カルシウム硬化物 65～86 有機質繊維 1～6 (セルロース繊維、ポリビニルアルコール繊維、ポリプロピレン繊維等) 無機質繊維 4 未満 (ガラス繊維、ロックウール繊維等) 有機質混和材 0～3 (リグニン、メチルセルロース、撥水剤等) 無機質混和材 0～26 (パーライト、炭酸カルシウム、マイカ等) <p>化粧仕様</p> <p>塗料の種類 アクリル樹脂系塗料、アクリルウレタン樹脂系塗料、アクリルシリコン樹脂系塗料、フッ素樹脂系塗料、エポキシ樹脂系塗料、無機質系塗料</p> <p>塗布量(g/m²)：200 以下(有機固形分量)</p> <p>密度(g/cm³)：1.1(±0.2)(化粧を含む)</p> <p>表面の形状：平滑又はエンボス・溝模様</p> <p>端部形状(サイディング相互の重なりと隙間)</p> <p>重なり(mm)：9 以上</p> <p>隙間(mm)：3 以下</p> <p>厚さ(mm)：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 中実品 15(±1.2)～26(±2.0)</p> <p>b. 中空品 18(±1.4)～26(±2.0)</p>

つづく



つづき


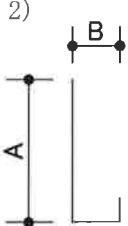
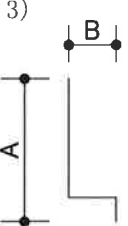
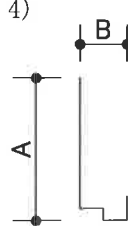
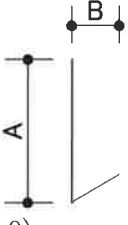
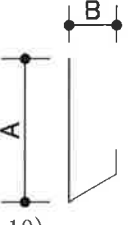
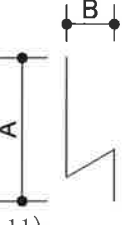
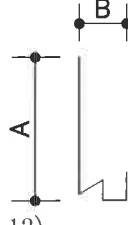
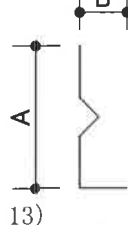
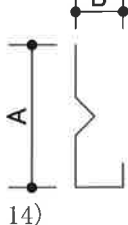
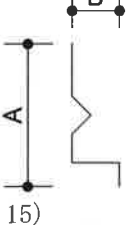
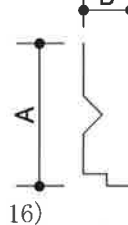
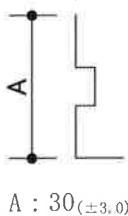
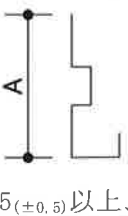
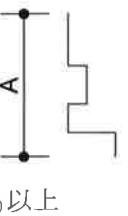
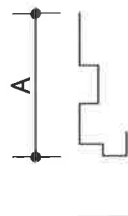
項	目	製品仕様
① 外 装 材	化粧窯業系サイ ディング	<p>大きさ(mm)</p> <p>働き幅：300_(±1)～500_(±1)</p> <p>長さ：3,640_(±1)以下</p> <p>(大きさは一般部における寸法を示す。)</p> <p>断面形状</p> <p>最小厚さ(mm)：11以上</p> <p>エンボス又は溝模様の容積欠損率(%)：11以下</p> <p>(サイディング全体積(合いじゃくり部を除く)に対するサイディング裏面から15mm以下のエンボス又は溝の欠損容積の割合)</p> <p>中空率(%)：34以下</p> <p>(但し、板厚18mmを超える場合は厚さを増した分だけ中空部高さを増し、中空率を上げることができる)</p> <p>張方：(1)又は(2)のいずれかによる。</p> <p>(1)横張</p> <p>(2)縦張</p> <p>横張仕様の短辺方向における目地の種類：下記のいずれかによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目透かし目地(目地幅11_(±1)mm以下) ・金属製ジョイナー目地 ・本実目地 ・合いじゃくり目地 ・突付け目地 <p>取付け工法：a又はbのいずれかによる。</p> <p>a. 外装材留金具工法</p> <p>b. 胴縁併用外装材留金具工法</p>
	外装下張材	<p>種類、規格等：aからdのいずれかによる。</p> <p>a. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板</p> <p>規格：難燃材料認定番号 RM-0059</p> <p>形状：平板</p> <p>端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル</p> <p>厚さ(mm)：9.5_(±0.95)</p> <p>密度(g/cm³)：0.73_(±0.07)</p> <p>b. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板</p> <p>規格：準不燃材料認定番号 QM-0954-1</p> <p>形状及び端部の形状は前記のaに同じ。</p> <p>厚さ(mm)：9.5_(±0.95)</p> <p>密度(g/cm³)：0.8_(±0.08)</p> <p>c. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板</p> <p>規格：準不燃材料認定番号 QM-0955-1</p> <p>形状、端部の形状及び密度は前記のbに同じ。</p> <p>厚さ(mm)：9.5_(±0.95)～12.5_(±1.25)</p> <p>d. 両面ボード用原紙張せっこう板</p> <p>規格：不燃材料認定番号 NM-4127</p> <p>形状及び端部の形状は前記のaに同じ。</p> <p>厚さ(mm)：9.5_(±0.95)～12.5_(±1.25)</p> <p>密度(g/cm³)：1.0_(±0.1)</p>

項 目	製 品 仕 様
② 木製下地材 柱(荷重支持部材) 中間柱 間柱	<p>種類：a から d のいずれかによる。</p> <p>a. 平成 13 年国土交通省告示第 1024 号に規定する構造用集成材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>b. 平成 12 年建設省告示第 1452 号に規定する構造用製材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>c. 平成 13 年国土交通省告示第 1024 号に規定する構造用単板積層材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>d. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材</p> <p>断面寸法(mm)：105 以上×105 以上 密度(g/cm³)：0.38(±0.08)以上 取付け間隔(mm) 柱と間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。)</p> <p>種類：a から e のいずれかによる。</p> <p>a. 構造用製材、造作用製材又は下地用製材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>b. 構造用集成材又は造作用集成材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>c. 構造用単板積層材又は造作用単板積層材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>d. 枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材(JAS 及び JAS 材の加工品を含む)</p> <p>e. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材</p> <p>断面寸法(mm)：45 以上×105 以上 取付け間隔(mm) 中間柱と間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。) 中間柱と柱の間隔、又は間柱を介する場合の中間柱相互の間隔：1,000(±100)以下(一般部における寸法を示す。)</p> <p>種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27 以上×105 以上 取付け間隔(mm) 間柱と柱又は中間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。)</p>
③ 断熱材 充てん断熱材	<p>材料：吹付け硬質ウレタンフォーム</p> <p>組成(質量%)</p> <p> { ポリイソシアネート ポリエーテル系ポリオール ポリエステル系ポリオール 難燃剤(りん酸エステル) 添加剤(触媒、整泡剤等) } 非公開 </p> <p>発泡剤(HFO)</p> <p>イソシアネート指数</p> <p>密度(kg/m³)：32(±4)</p> <p>厚さ(mm)：75(±8)～150(±15)</p> <p>充てん断熱材の厚さが柱断面 105 以上となる場合は柱断面に応じた寸法とする</p>

項 目	製 品 仕 様
④ 内 装 材	<p>種類、規格等：a から d のいずれかによる。</p> <p>a. 両面ボード用原紙張せっこう板 規格：不燃材料認定番号 QM-0753 形状：平板 表面の形状：平滑又はエンボス 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ(mm)：9.5_(±0.95) 密度(g/cm³)：0.48_(±0.05)</p> <p>b. 両面ボード用原紙張せっこう板 規格：不燃材料認定番号 NM-3704 形状、表面の形状、端部の形状は前記の a に同じ。 厚さ(mm)：9.5_(±0.95) 密度(g/cm³)：0.48_(±0.05)</p> <p>c. 両面ボード用原紙張せっこう板 規格：不燃材料認定番号 NM-3690 形状、端部の形状は前記の a に同じ。 表面の形状：平滑 厚さ(mm)：12.5_(±1.25) 密度(g/cm³)：0.48_(±0.05)</p> <p>d. せっこうボード 規格：JIS A 6901(せっこうボード製品) 形状、表面の形状、端部の形状は前記の c に同じ。 厚さ(mm)：9.5_(±0.5)～25_(±0.5) 密度(g/cm³)：0.65 以上</p>

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料 胴縁(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に用いる。)	仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合) 種類：a から i のいずれかによる。 a. 製材(無等級材又は JAS(加工品を含む)) b. 集成材(無等級材又は JAS(加工品を含む)) c. 構造用合板(JAS(加工品を含む)) d. 化粧ばり構造用合板(JAS(加工品を含む)) e. 普通合板(JAS(加工品を含む)) f. 構造用パネル(JAS(加工品を含む)) g. 単板積層材(JAS(加工品を含む)) h. パーティクルボード(JIS A 5908) i. MDF(JIS A 5905) 張方：(1)又は(2)のいずれかによる。 (1)外装材の張方が横張の場合：縦張 (2)外装材の張方が縦張の場合：横張 断面寸法(mm)：1)又は2)のいずれかによる。 1)外装材の張方が横張の場合 一般部：12 _(±1,2) 以上×40 _(±4) 以上 外装材縦目地部：i)又はii)のいずれかによる。 i)12 _(±1,2) 以上×80 _(±8) 以上の1列使い ii)12 _(±1,2) 以上×40 _(±4) 以上の2列使い 2)外装材の張方が縦張の場合 12 _(±1,2) 以上×40 _(±4) 以上 取付け間隔(mm)：500 _(±50) 以下
補強用胴縁(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類、張方：前記の胴縁に同じ。 断面寸法(mm)：5 _(±0.5) 以上×40 _(±4) 以上
補強用下地材(必要に応じて取付ける。)	仕様：(1)又は(2) (1)なし (2)あり(補強用胴縁を縦張で取付ける場合は必須) 種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27 _(±2.7) 以上×27 _(±2.7) 以上
受材(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27 _(±2.7) 以上×27 _(±2.7) 以上
防水紙(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：a から g のいずれかによる。 a. アスファルトフェルト(JIS A 6005) b. 透湿防水シート(JIS A 6111) c. ポリエチレン樹脂系 d. ポリエステル樹脂系 e. ポリプロピレン樹脂系 f. 上記c～eの組み合わせ g. 上記a～fにアルミニウム表面処理を施したもの 厚さ(mm)：0.6 _(±0.06) 以下

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料 外装材の横張仕様の短辺方向における目地処理材	<p>種類：(1), (2)の併用、(1), (3)の併用又は(4)のみのいずれかによる。</p> <p>(1)シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 建築用シーリング材(JIS A 5758)、ポリウレタン系、シリコン系、ポリイソブチレン系、変成シリコン系、ポリサルファイド系、アクリルウレタン系、アクリル系又はシリル化アクリレート系 充てん高さ(mm)：$5_{(\pm 0.5)}$以上</p> <p>(2)バックアップ材 種類：下記のいずれかによる。 ポリエチレン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、ポリエチレン酢酸ビニル系、ポリ塩化ビニル系、ポリエチレンテレフタレート系、ポリウレタン系、ポリオレフィン系、シリコン系、アクリル系、フェノール系又は合成ゴム系 充てん厚さ(mm)：$3_{(\pm 0.3)}$以上</p> <p>(3)ハット形ジョイナー 種類及び規格：下記のいずれかによる。 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ・ 電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) ・ 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ・ 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) ・ 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ・ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ・ 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) ・ 熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) ・ 冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) ・ ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744) ・ 上記以外の鋼板 ・ 上記以外のステンレス鋼板 ・ アルミニウム板 厚さ(mm)：$0.2_{(\pm 0.02)}$以上 形状及び寸法(mm)：形状は i) 又は ii) のいずれかによる。 i)  ii)  A : $3_{(\pm 1)}$以上、B : $11_{(\pm 1)}$以下、C : $3_{(\pm 1)}$以上 側面孔(あり又はなし) 側面孔(あり又はなし) 孔形状 : $3_{(\pm 0.3)} \times 10_{(\pm 1)}$以下 間隔 : $20_{(\pm 2)}$以上</p> <p>(4)金属製ジョイナー 種類及び規格：上記ハット形ジョイナーに同じ。 厚さ(mm)：$0.2_{(\pm 0.02)}$以上 形状：H形等</p>

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料	<p>仕様：あり又はなし 材料名：鋼製又はステンレス鋼製 厚さ(mm)：0.4(±0.04)以上 形状及び寸法(mm)：形状は 1)から 16)のいずれかによる(各種リップ付、穴付を含む。)</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">1) </div> <div style="text-align: center;">2) </div> <div style="text-align: center;">3) </div> <div style="text-align: center;">4) </div> <div style="text-align: center;">5) </div> <div style="text-align: center;">6) </div> <div style="text-align: center;">7) </div> <div style="text-align: center;">8) </div> <div style="text-align: center;">9) </div> <div style="text-align: center;">10) </div> <div style="text-align: center;">11) </div> <div style="text-align: center;">12) </div> <div style="text-align: center;">13) </div> <div style="text-align: center;">14) </div> <div style="text-align: center;">15) </div> <div style="text-align: center;">16) </div> </div> <p>A : 30(±3.0)以上、B : 5(±0.5)以上、C : 1(±0.1)以上</p>

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副構成材料 目地処理材(必要に応じて処理する。)	<p>外装下張材用 仕様：あり又はなし 種類：下記のいずれかによる。 せっこうボード用目地処理材(JIS A 6914)、合成樹脂エマルションパテ(JIS K 5669)、せっこう系、炭酸カルシウム系又は合成樹脂系 塗布量(g/m)：10(±1)以上</p> <p>内装材用 仕様：あり又はなし 種類及び規格：1)から3)のいずれか、又は1)から3)のうち2種類以上の組み合わせによる。</p> <p>1)パテ処理材 種類及び塗布量は前記の外装下張材用に同じ。</p> <p>2)テープ 種類：ガラス繊維テープ、樹脂製テープ又は紙テープ 寸法(mm)：厚さ0.05(±0.01)以上、幅20(±2)以上</p> <p>3)金属製ジョイナー 種類及び規格 前記の外装材の横張仕様の短辺方向における目地処理材(3)ハット型ジョイナーに同じ。 厚さ(mm)：0.2(±0.02)以上 形状：H形等</p>
留付け材	<p>外装材留金具固定用 種類及び寸法：a から c のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製スクルーくぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 c. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 留付け本数：外装材留金具1個につき1本以上</p> <p>外装材固定用(必要に応じて使用する。) 仕様：あり又はなし 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 留付け間隔(mm)：3,000(±300)以下(外装材1枚につき1本以上)</p> <p>外装下張材固定用 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 留付け間隔(mm)：200(±20)以下</p>

つづく

つづき

	項 目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>内装材固定用</p> <p>種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：$\phi 1.5_{(\pm 0.2)}$以上$\times L19_{(\pm 1.9)}$以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：$\phi 1.5_{(\pm 0.2)}$以上$\times L19_{(\pm 1.9)}$以上 留付け間隔(mm)：$500_{(\pm 50)}$以下</p> <p>胴縁固定用</p> <p>仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし</p> <p>2) あり(胴縁を用いる場合)</p> <p>種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：$\phi 1.8_{(\pm 0.2)}$以上$\times L32_{(\pm 3.2)}$以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：$\phi 1.8_{(\pm 0.2)}$以上$\times L32_{(\pm 3.2)}$以上 留付け間隔(mm)：$500_{(\pm 50)}$以下</p> <p>補強用胴縁固定用</p> <p>仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし</p> <p>2) あり(補強用胴縁を用いる場合)</p> <p>種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：$\phi 1.7_{(\pm 0.2)}$以上$\times L25_{(\pm 2.5)}$以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：$\phi 1.7_{(\pm 0.2)}$以上$\times L25_{(\pm 2.5)}$以上 留付け間隔(mm)：$3,000_{(\pm 300)}$以下</p> <p>補強用下地材固定用</p> <p>仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし</p> <p>2) あり(補強用下地材を用いる場合)</p> <p>種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：$\phi 1.8_{(\pm 0.2)}$以上$\times L32_{(\pm 3.2)}$以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：$\phi 1.8_{(\pm 0.2)}$以上$\times L32_{(\pm 3.2)}$以上 留付け本数：片側 1 本以上</p> <p>受材固定用</p> <p>仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし</p> <p>2) あり(受材を用いる場合)</p> <p>種類及び寸法：前記の補強用下地材固定用に同じ。 留付け本数：片側 1 本以上</p>

つづく

つづき

項	目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>防水紙仮留め用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (防水紙を用いる場合) 種類：a から c のいずれかによる。 a. ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 厚さ (mm)：0.5_(±0.1)以下、幅 (mm)：50_(±5)以下 貼付け間隔 (mm)：455_(±46)以上 b. スプレーのり 塗布量 (g/m)：30_(±3)以下 塗布間隔 (mm)：455_(±46)以上 c. ステープル 寸法 (mm)：幅 10_(±1)以上、長さ 6_(±1)以上</p> <p>防湿気密フィルム固定用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (防湿気密フィルムを用いる場合) 種類及び仕様：上記の防水紙仮留め用に同じ。</p> <p>スペーサー仮留め用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (スペーサーを用いる場合) 種類及び仕様：a から c のいずれかによる。 a. ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法 (mm)：厚さ 0.5_(±0.1)以下、幅 50_(±5)以下 b. スプレーのり 塗布量 (g/m)：30_(±3)以下 c. ステープル 寸法 (mm)：幅 10_(±1)以上、長さ 6_(±1)以上</p> <p>スターター固定用 仕様：1) 又は 2) 1) なし 2) あり (スターターを用いる場合) 種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法 (mm)：φ 1.7_(±0.2)以上×L25_(±2.5)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法 (mm)：φ 1.7_(±0.2)以上×L25_(±2.5)以上 留付け間隔 (mm)：1,500_(±150)以下</p>

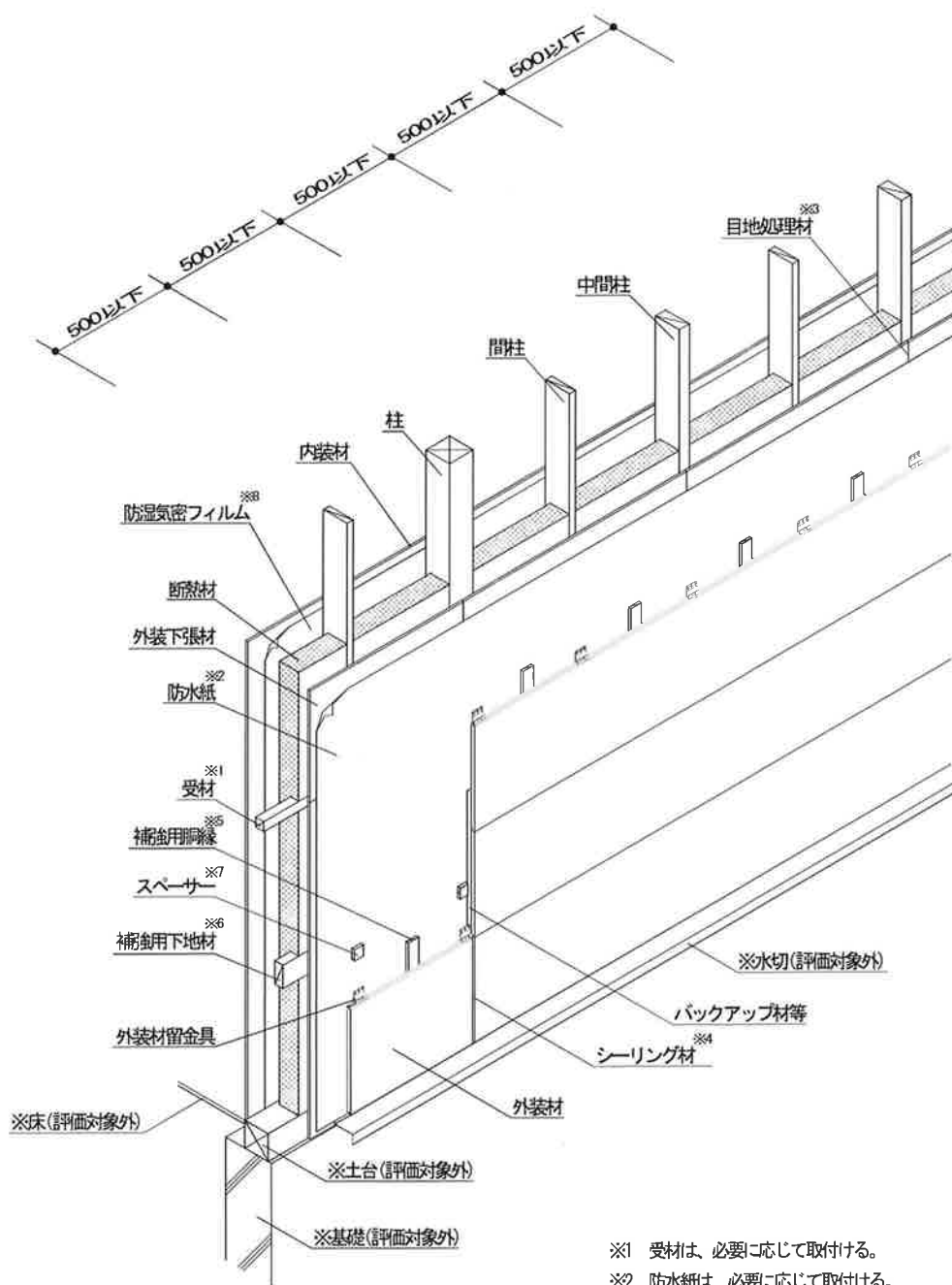
4. 構造説明図

4. 1 外装材 横張仕様

(1) 外装材留金具工法仕様

①透視図(屋外側)

(単位 : mm)



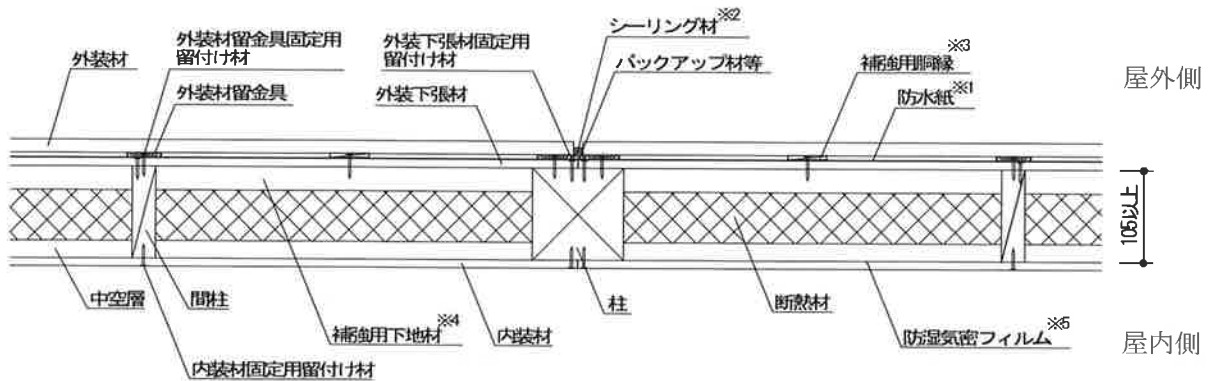
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※5 補強用隠縁は、必要に応じて取付ける。
- ※6 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※7 スペースは、必要に応じて取付ける。
- ※8 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。

※ : 本評価内容に含まない
 注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-1 斜視図 (外装材横張仕様 (外装材留金具工法仕様))
 別添- 12

②水平断面図

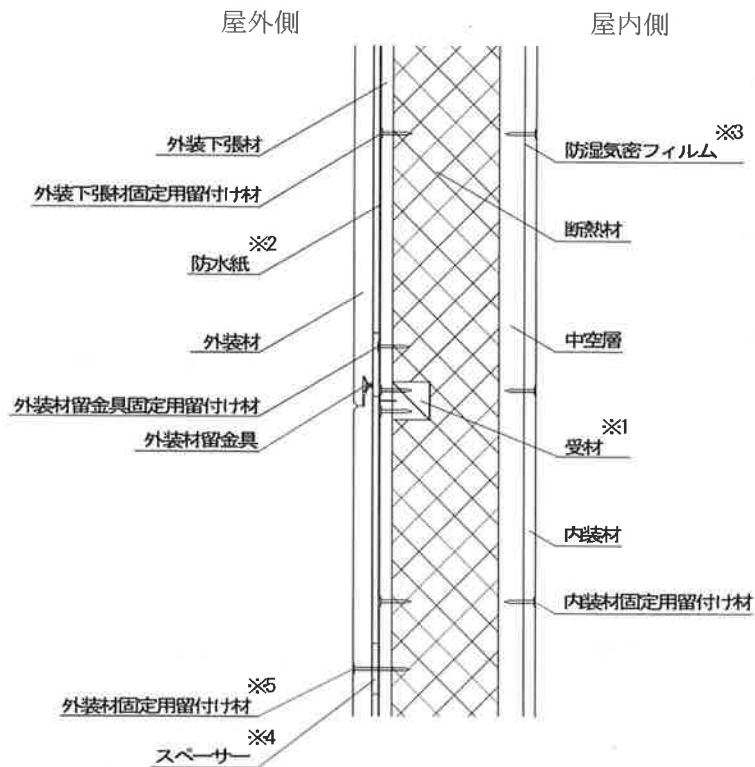
(単位：mm)



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※3 補強用繊維は、必要に応じて取付ける。
- ※4 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※5 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。

③鉛直断面図

(単位：mm)



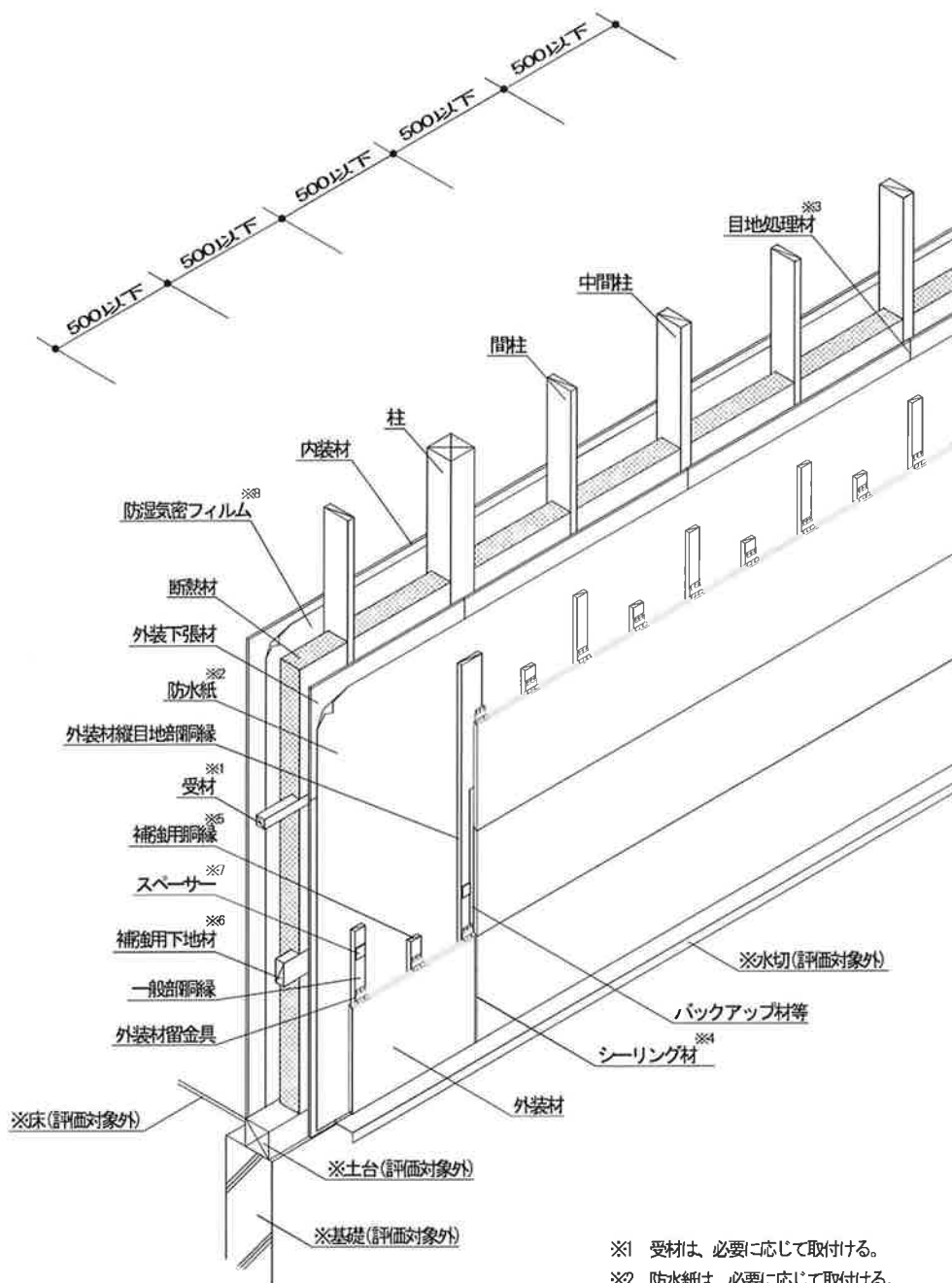
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 スペースは、必要に応じて取付ける。
- ※5 外装材固定用留付け材は、必要に応じて取付ける。

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-2 断面図 (外装材横張仕様 (外装材留金具工法仕様))

(2) 胴縁併用外装材留金具工法仕様
①透視図（屋外側）

(単位：mm)



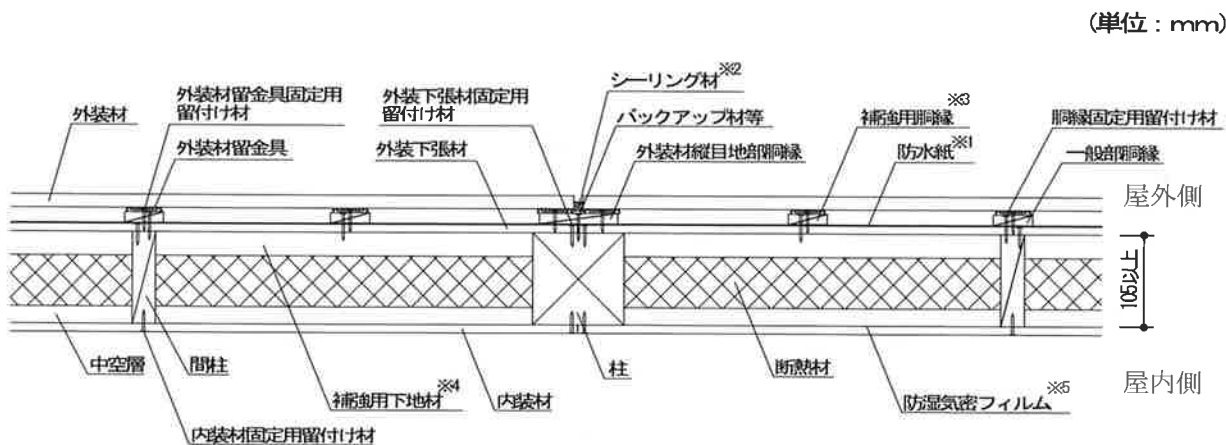
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※5 補強用断縁は、必要に応じて取付ける。
- ※6 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※7 スペースは、必要に応じて取付ける。
- ※8 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。

※：本評価内容に含まない

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

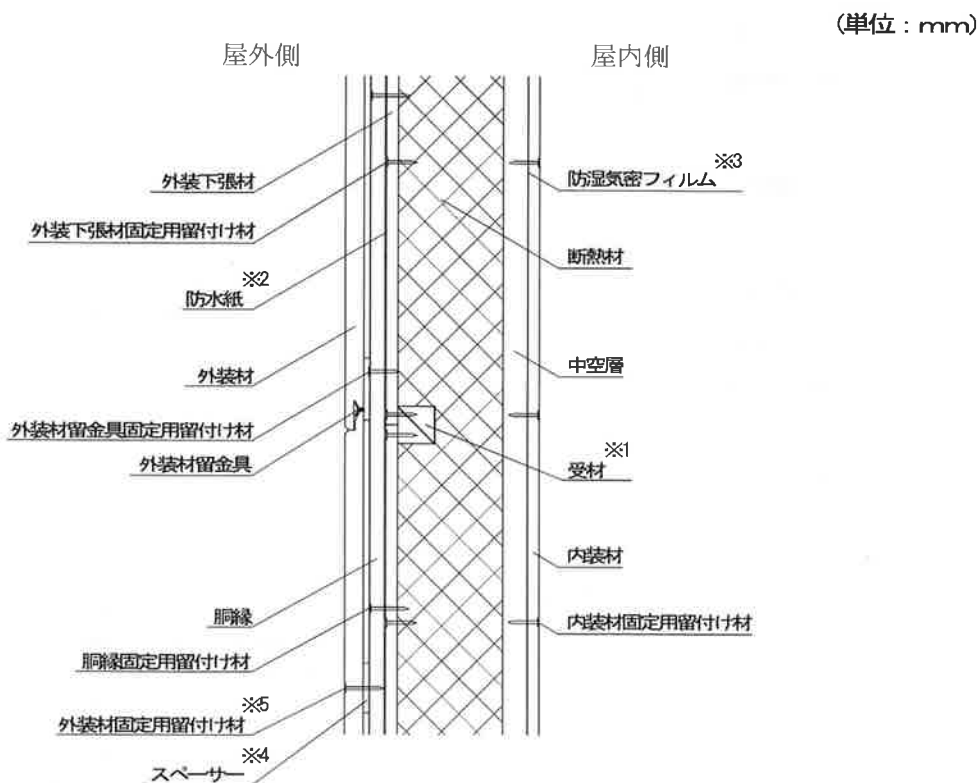
図－3 斜視図（外装材横張仕様（胴縁併用外装材留金具工法仕様））

②水平断面図



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
- ※3 補強用胴縁は、必要に応じて取付ける。
- ※4 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※5 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。

③鉛直断面図



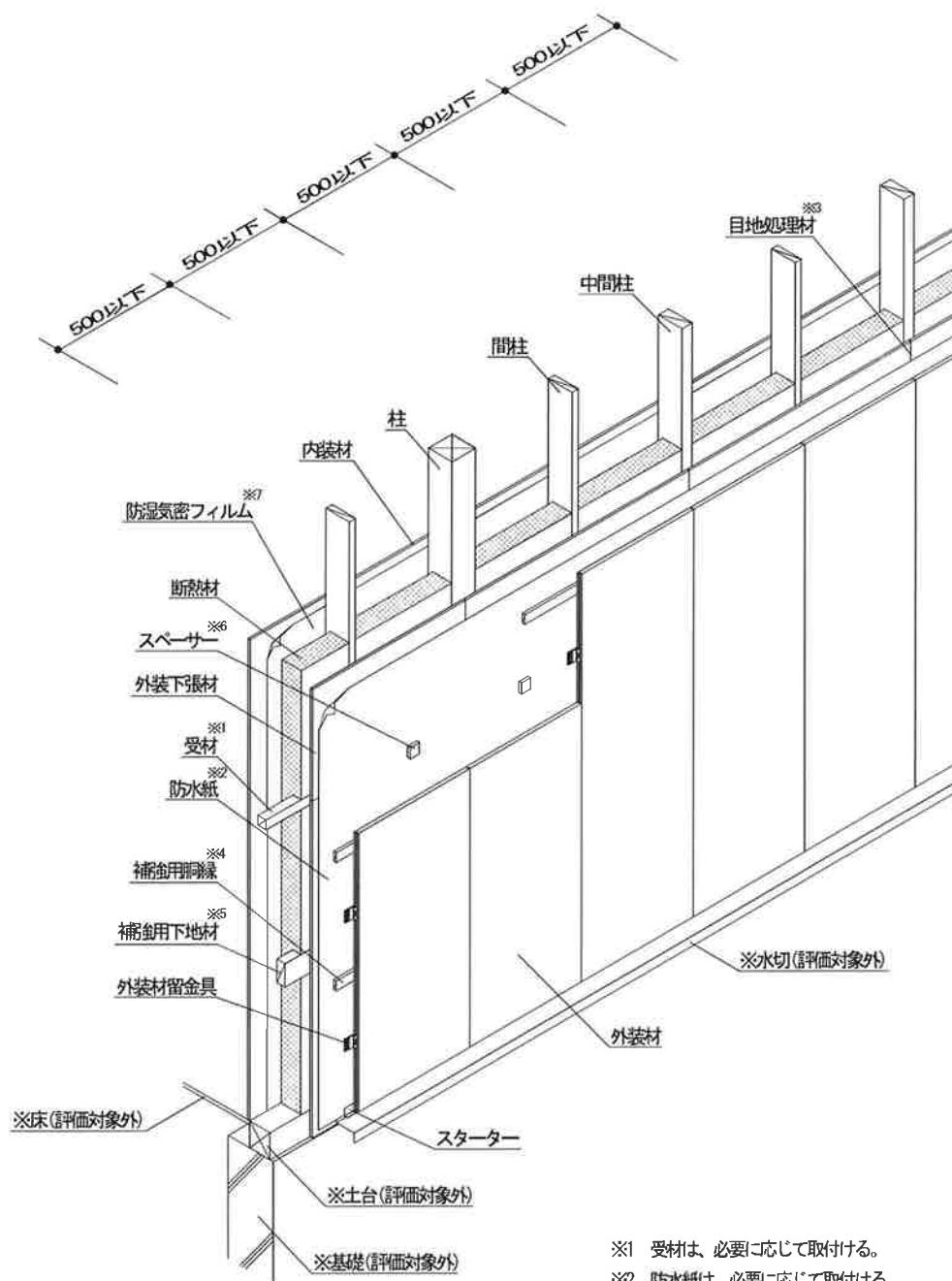
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 スペースは、必要に応じて取付ける。
- ※5 外装材固定用留付け材は、必要に応じて取付ける。

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-4 断面図 (外装材横張仕様 (胴縁併用外装材留金具工法仕様))

4. 2 外装材 縦張仕様
 (1) 外装材留金具工法仕様
 ①透視図(屋外側)

(単位 : mm)



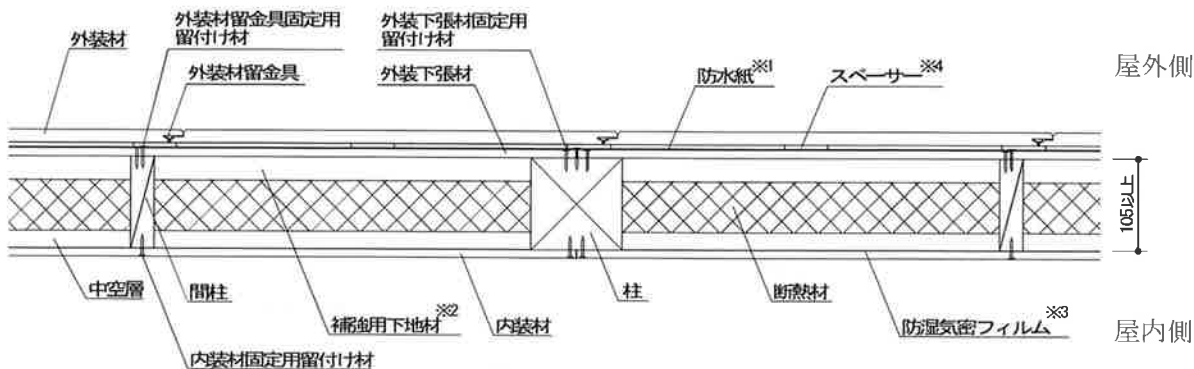
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 補金用剛線は、必要に応じて取付ける。
- ※5 補金用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※6 スペースは、必要に応じて取付ける。
- ※7 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。

※ : 本評価内容に含まない
 注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-5 斜視図(外装材縦張仕様(外装材留金具工法仕様))

② 水平断面図

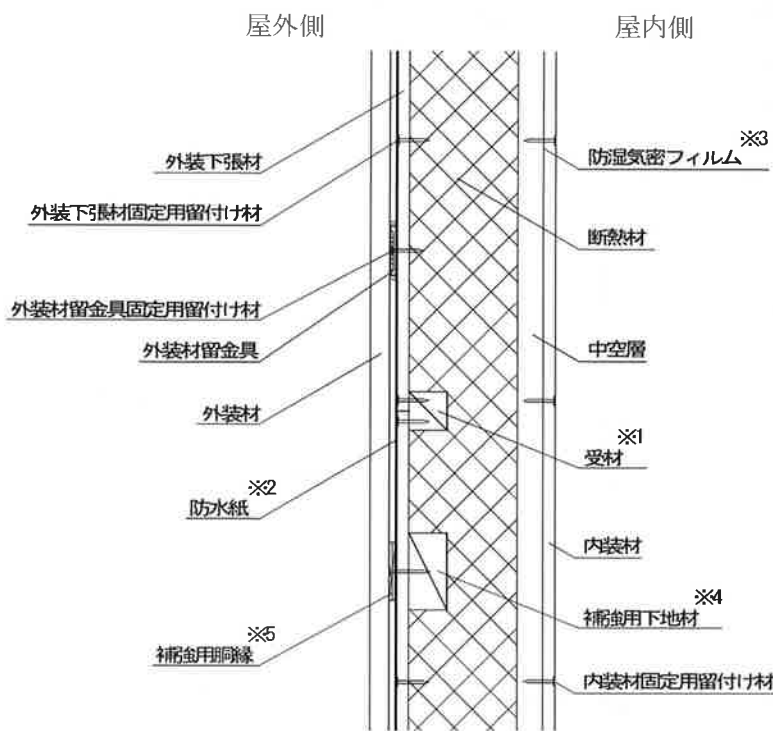
(単位：mm)



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 スペーサーは、必要に応じて取付ける。

③ 鉛直断面図

(単位：mm)



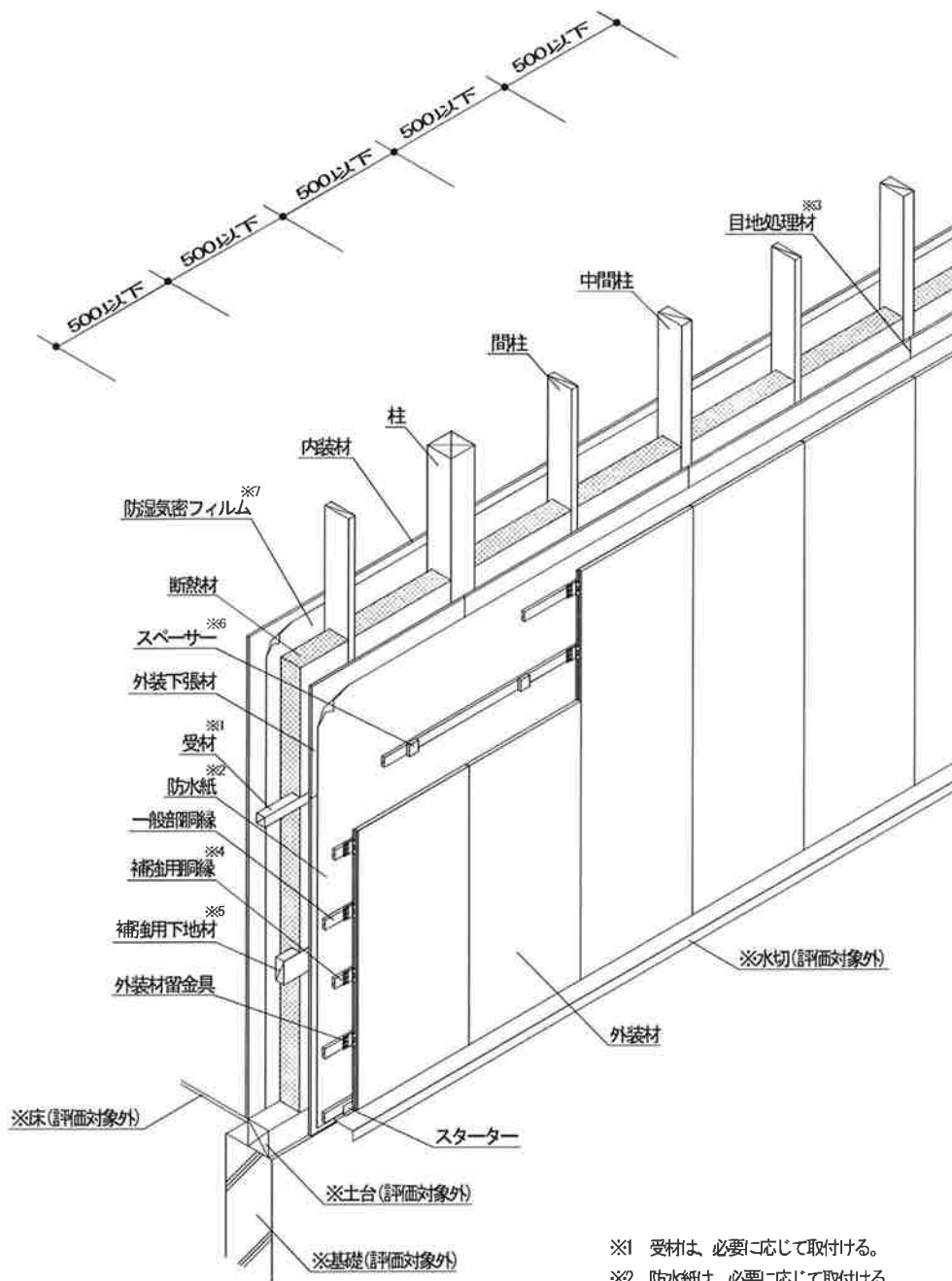
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※5 補強用脚縁は、必要に応じて取付ける。

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-6 断面図 (外装材縦張仕様 (外装材留金具工法仕様))

(2) 胴縁併用外装材留金具工法仕様
①透視図(屋外側)

(単位 : mm)



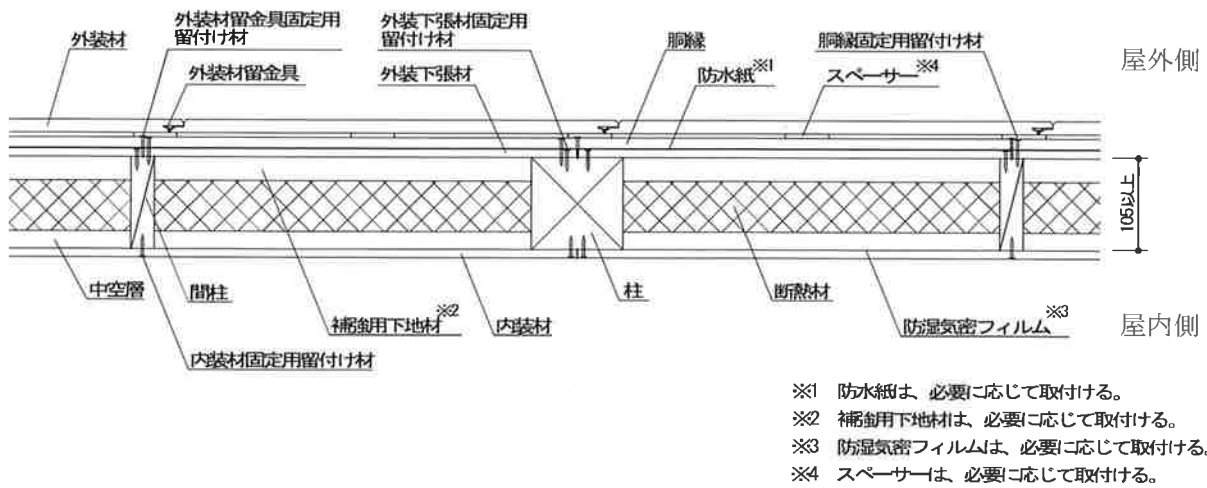
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 補強用胴縁は、必要に応じて取付ける。
- ※5 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※6 スペーサーは、必要に応じて取付ける。
- ※7 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。

※ : 本評価内容に含まない
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-7 斜視図(外装材縦張仕様(胴縁併用外装材留金具工法仕様))

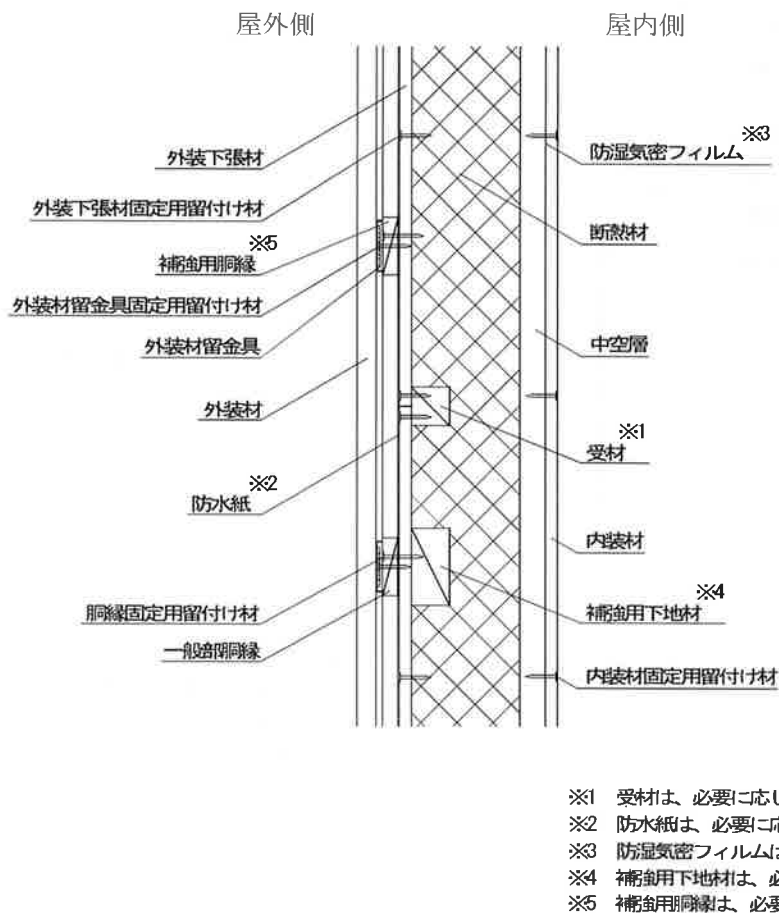
②水平断面図

(単位 : mm)



③鉛直断面図

(単位 : mm)

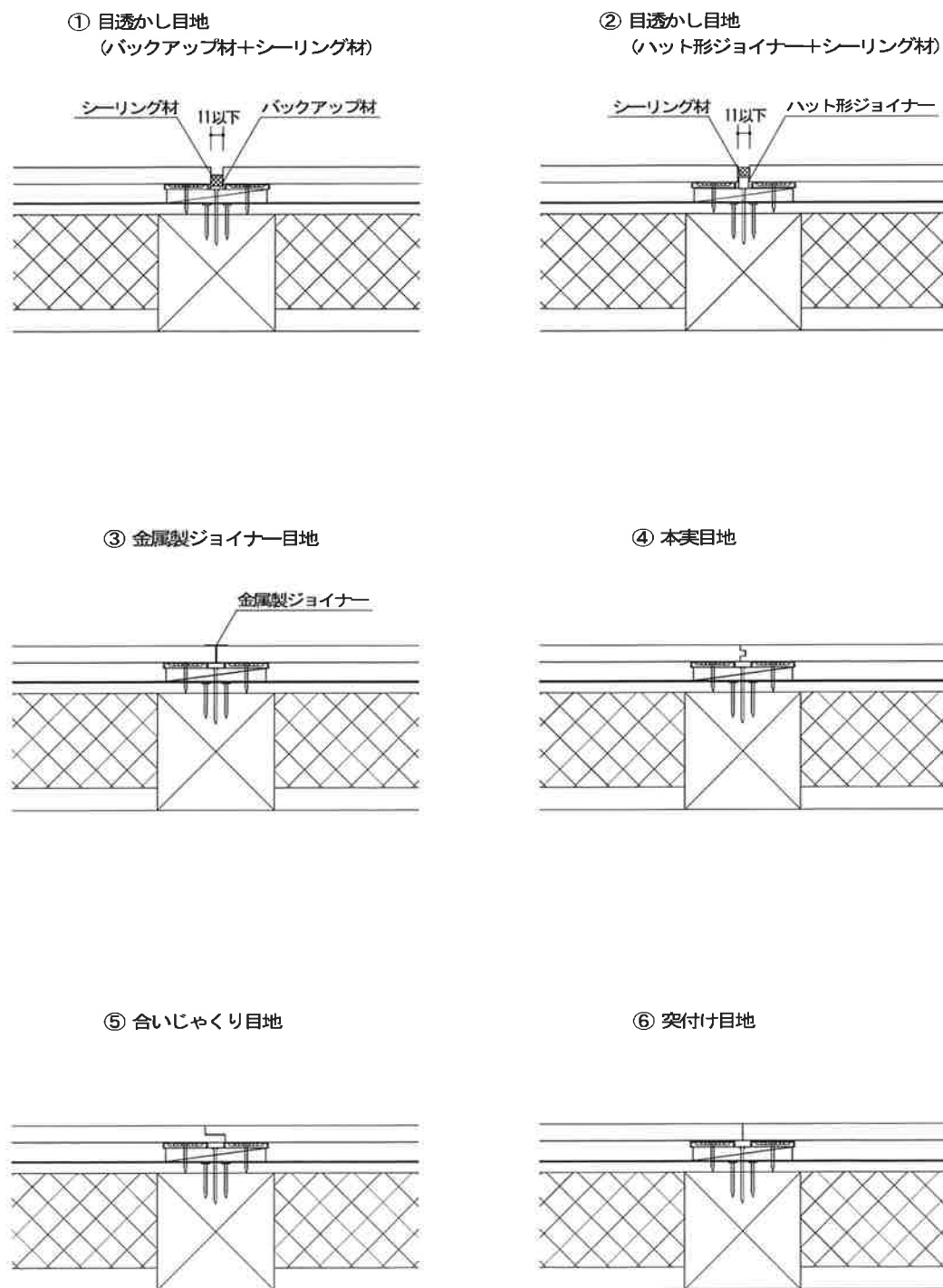


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-8 断面図 (外装材縦張仕様 (胴縁併用外装材留金具工法仕様))

4. 3 外装材の横張仕様における短辺方向の目地の概略図
 (胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合の例)

(単位 : mm)



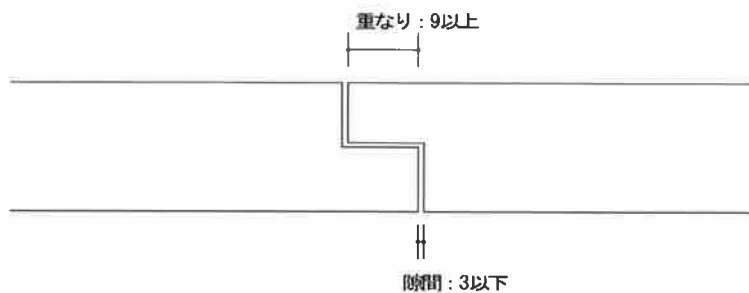
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-9 短辺方向の目地の概略図 (外装材横張仕様)

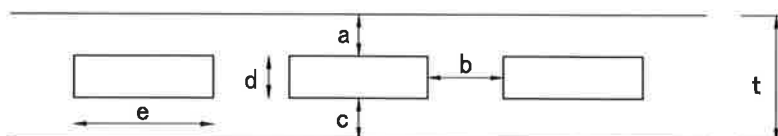
4. 4 外装材の端部形状及び断面形状の概略図

(単位: mm)

①端部形状



②断面形状



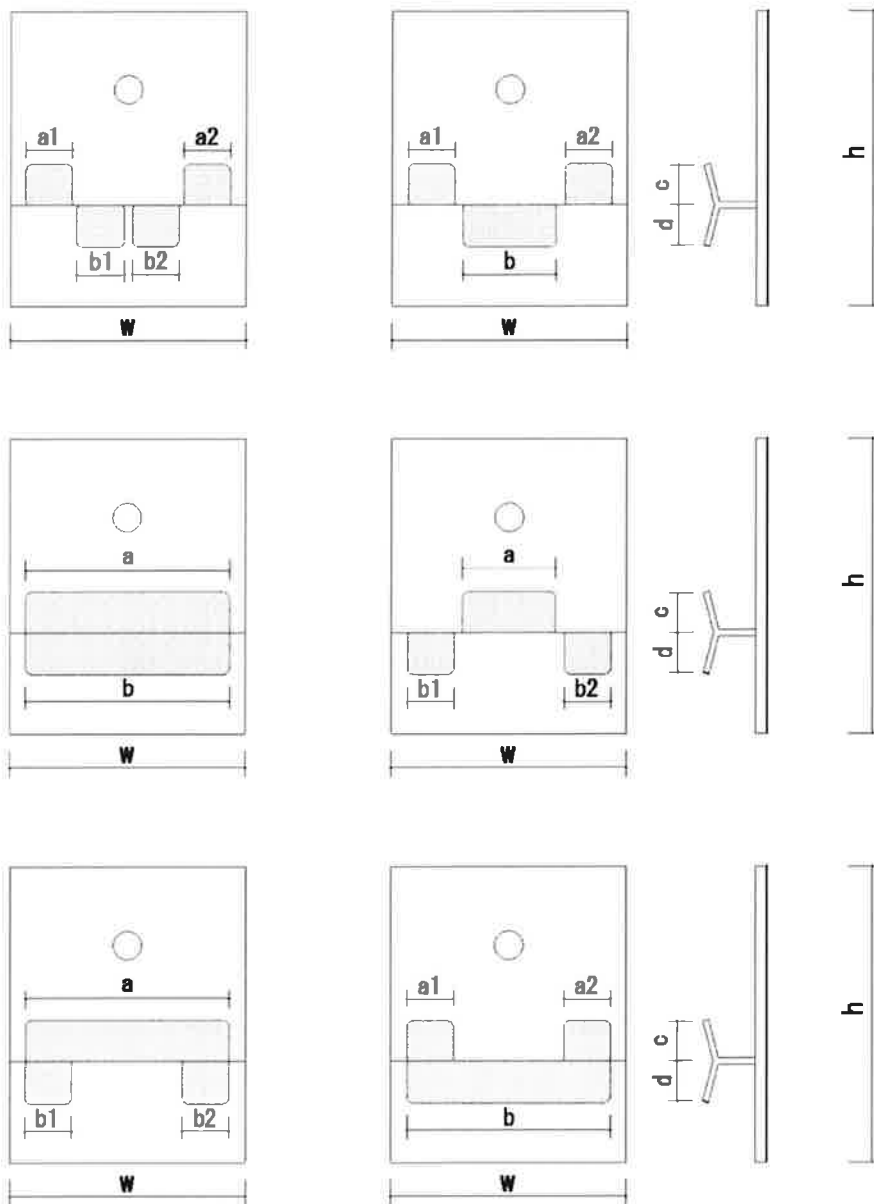
厚さ t	18以上
a	5以上
b	3.5以上
c	4以上
d	9以下
e	t 以下

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-10 外装材の端部形状及び断面形状の概略図

4. 5 外装材留金具の概要図

(単位 : mm)



記号	寸法
w	40以上
h	40以上
w+h	90以上

- a : 上部ツメの幅又は総幅 (a = a1 + a2)
- b : 下部ツメの幅又は総幅 (b = b1 + b2)
- c : 上部ツメの掛かり高さ
- d : 下部ツメの掛かり高さ
- ※ 上部と下部のツメの総掛かり代面積 : 170.7(±17)mm² 以上
- ※ (a×c) + (b×d)

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

図-11 外装材留金具の概要図

5. 施工方法等

(1) 木製下地材の組立て

柱を土台に取付ける。柱と柱の間に断面寸法が 27mm 以上×105mm 以上の間柱を 500mm 以下の間隔で配置し、土台に取付ける。この時、外装下張材の縦目地部となる位置には断面寸法が 45mm 以上×105mm 以上の中間柱又は柱を使用する。外装下張材に横目地を設ける場合は、受材を外装下張材の横目地となる位置に配置し、 $\phi 1.8\text{mm}$ 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で、片側 1 本以上、柱、間柱、中間柱等を取付ける。必要に応じて、補強用下地材を $\phi 1.8\text{mm}$ 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で、片側 1 本以上、柱、間柱、中間柱等を取付ける。

(2) 外装下張材の取付け

外装下張材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 1.7\text{mm}$ 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等で、200mm 以下の間隔で木製下地材に取付ける。横目地を設ける場合は、 $\phi 1.7\text{mm}$ 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等で、水平方向 200mm 以下の間隔で必ず受材に取付ける。

なお、外装下張材の目地部は、必要に応じて外装下張材の目地処理材で処理する。

(3) 防水紙の仮留め

必要に応じて、防水紙をたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で外装下張材に仮留めする。継ぎ目の重なりは 500mm 以下とする。

(4) 胴縁の取付け(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に取付ける。)

a) 胴縁を縦張で取付ける場合

胴縁は、幅 40mm 以上のものを 500mm 以下の間隔で柱、間柱及び中間柱にあたる箇所配置し、 $\phi 1.8\text{mm}$ 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で 500mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱等を取付ける(必要に応じて胴縁に下穴を開ける)。なお、外装材において、縦目地を設ける箇所には、幅 80mm 以上のもの 1 列又は幅 40mm 以上のもの 2 列を配置する。

b) 胴縁を横張で取付ける場合

胴縁は、幅 40mm 以上のものを 500mm 以下の間隔で配置し、 $\phi 1.8\text{mm}$ 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で 500mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱等を取付ける(必要に応じて胴縁に下穴を開ける)。必要に応じて、胴縁の継ぎ目に 30mm 程度の通気層を設ける。

(5) 補強用胴縁の取付け

a) 胴縁を縦張で取付ける場合

必要に応じて、補強用胴縁は、幅 40mm 以上のものを胴縁間(柱、間柱及び中間柱間)に配置し、 $\phi 1.7\text{mm}$ 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等を用いて、3,000mm 以下の間隔で補強用下地材又は受材等を取付ける(必要に応じて補強用胴縁に下穴を開ける)。

b) 胴縁を横張で取付ける場合

必要に応じて、補強用胴縁は、幅 40mm 以上のものを胴縁間に配置し、 $\phi 1.7\text{mm}$ 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等を用いて、3,000mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱等を取付ける(必要に応じて補強用胴縁に下穴を開ける)。

(6) スターターの取付け

必要に応じて、スターターを、 $\phi 1.7\text{mm}$ 以上×L25mm 以上の鋼製くぎ等で、1,500mm 以下の間隔で土台、胴差し又は胴縁等を取付ける。

(7) 外装材留金具の取付け

外装材留金具を、胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装下張材の表面に働き幅間隔で、 $\phi 1.7\text{mm}$ 以上×L25mm 以上の外装材留金具固定用鋼製スクリークぎ等を用いて、外装材を張付けながら取付ける。ただし、通気層と同じ厚さの補強用胴縁を用いる場合、補強用胴縁には外装材留金具を取付けなくてもよい。

(8) スペーサーの取付け

必要に応じて、スペーサーをブチルゴムテープ等で胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装下張材の表面に取付ける。

(9) 外装材の取付け

外装材の張方は横張又は縦張とする。

外装材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、留金具にはめ込みながら張り上げる。取付けは、目地通りよく、不陸、目違いのないように行う。必要に応じて、 $\phi 1.8\text{mm}$ 以上×L32mm 以上の鋼製スクリークぎ等を用いて、胴縁、補強用胴縁又は柱、間柱、中間柱等を取付ける。外装材を横張とする場合の縦目地は、柱等の下地がある場所で合わせ、目地処理は、以下の方法で行う。

①目透かし目地

目透かし目地を設ける場合には、目地幅 11mm 以下になるように外装材を取付け、バックアップ材等を併用して、シーリング材を充てん高さ 5mm 以上となるように充てんする。

②金属製ジョイナー目地

H 形等金属製ジョイナーに外装材をはめ込み、外装材を留付けて押える。

③本実目地

外装材の重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、表面側・裏面側のいずれかの端部を合わせて取付ける。

④合いじゃくり目地

外装材の重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、上実・下実のいずれかの端部を合わせて取付ける。

⑤突付け目地

目地部において、外装材を突付けて取付ける。

外装材を縦張として上下方向に継ぐ場合は必ず胴差し等の位置で、外装材上端部に捨てシーリングをしてから水切りを設けて行う(必要に応じてスターターを取付ける)。

(10) 断熱材の取付け

断熱材は、柱、間柱、中間柱等の間の外装下張材へ吹付ける。

吹付け後、必要に応じて整形を行う。吹付け厚さ等について、吹付け時又は吹付け後に現場にて適切な範囲内であることを確認する。

なお、施工については、ウレタンフォーム工業会の自主管理基準により管理する。

(11) 防湿気密フィルムの取付け

必要に応じて、防湿気密フィルムをたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で柱、間柱、中間柱等に取付ける。継ぎ目の重なりは 100mm 以下とする。

(12) 内装材の取付け

必要に応じて、内装材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 1.5 \text{ mm}$ 以上 $\times L19 \text{ mm}$ 以上の鋼製等ねじで 500mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱、受材等に留付ける。必要に応じて、内装材に横目地を設けても良い。

なお、内装材の目地部は、必要に応じて内装材の目地処理材で処理する。

(注意事項) 本仕様を施工するにあたっては、開口部、床、屋根および軒裏等の取合いの部分において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。

本構造に使用される各留付け材は、構造説明図に記載される所定の留付け先に十分なかかり代が確保されるよう、留付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。

